

「Eraser」とは

ファイルやフォルダを完全に削除してくれるソフトです。

機密情報の書かれた極秘ファイル / フォルダ 等を、絶対に復元できないように完全抹消してくれます。

ドライブ内の未使用領域を完全に削除する機能や、スケジュール機能等も付いています。

利用できる抹消アルゴリズムは、Gutmann、US DoD 5220.22-M、Russian GOST P50739-95、RCMP TSSIT OPS-II、US Army AR380-19、British HMG IS5 等々全部で 13 種類あります。

ファイルを普通に削除し、その上からさらにデタラメ（ではないが）なデータを何度も上書きすることにより、元のデータを正常に復旧できないようにしてくれます。

（仮にファイルを取り出せても、元の状態で読んだりすることはまず不可能）

ファイルというものは、“ゴミ箱から削除”あるいは“[Shift]キーを押しながら削除”しても、実際にはファイルの住所・位置情報がなくなるだけで、実データそのものは削除されません。

そのため、本当に大事で機密なファイルなどは、「Eraser」などのソフトで完全に抹消しておく必要があるのです。

削除済みのデータを抹消する機能も付いているので※1、ハードディスクを売る時 / 捨てる時などにも便利です。

（捨てる時は、ハンマーやドリルなどで物理的に破壊してしまった方がより確実です）

（使い方は以下の通り。）

- 1 「Eraser.exe」を実行します。
- 2 まず最初に、ツールバー上にある「Settings」を選択します。
- 3 画面中央の「Default file erasure method」欄で、ファイルの抹消方法を選択します。
- 4 ファイルの抹消方法は、上書き回数（Passes）が多いほど確実になりますが、回数が多いとその分処理に時間がかかるようになります。
- 5 よほどの機密情報でなければ、通常は「US DoD 5220.22-M (8-306./E, C & E) (7 passes)」あたりでも十分すぎるほどです。
- 6 抹消方法を選択したら、ツールバー上の「Erase Schedule」ボタンをクリックします。メイン画面に戻ります。
- 7 完全に抹消してしまいたいファイルを、ウインドウ中央にドラッグ&ドロップします。（複数可）Are you sure you wish to erase the selected files? という確認ダイアログが表示されます。あとは、「はい」を選択すればOK。
- 8 ファイルの完全削除が行われます。

なお、決まった周期ごとに、特定のファイルやフォルダ、あるいはドライブ内の未使用

領域を、自動で完全に削除する “ スケジュール ” 機能も付いています※2。

このスケジュール機能の使い方は、次のようになります。

- 1 ツールバー上の「Erase Schedule」ボタンの右にある ▼ をクリックし、「New Task」を選択。(ホットキー “ [Ctrl] + 「N」 ” を押しても OK)
- 2 「Task Properties」という画面 が表示されます。

まず、一番上の「Task name」欄に、今から作成するスケジュールタスクの名前を入力します。

- 3 次に、「Task Type」欄で、「Recurring」にチェックを入れます※3。

- 4 左下の「Add Data」 ボタンをクリック。

- 5 「Select Data to Erase」という画面 が表示されます。

上部の「Erasure method」欄で、ファイルの抹消方法を選択しておきます。

- 6 その下の欄で、削除するファイルを設定します。

個別のファイルを削除する場合は「File」にチェックを入れ、右の「Browse」 ボタンをクリック →対象のファイルを選択します。

特定のフォルダ内にあるファイルを削除したい場合は、「Files in folder」にチェックを入れ、「Browse」 ボタンから目的のフォルダを指定します。

必要であれば、「Include Mask」欄で処理対象のファイルを、「Exclude Mask」欄で処理から除外するファイルを指定しておきます。

(ファイルは、 ワイルドカード で指定する)

ちなみに、「Delete folder if empty」にチェックを入れておくと、フォルダの中身がない時に登録フォルダそのものを削除してくれます※4。

ドライブ内の未使用領域を抹消したい場合は、「Unused space on drive」にチェックを入れ、削除対象とするドライブを指定します。

削除対象を “ ゴミ箱の中身 ” にしたい場合は、「Recycle Bin」にチェックを入れておきます。

- 7 対象を指定し終わったら、「OK」 ボタンをクリック。

- 8 続いて「Task Properties」画面の 「Schedule」 タブ を開きます。

タスクを手動で実行する場合( =「Run manually」を選択した場合)は、「Schedule」タブでの設定は必要ありません。

そのまま下の「OK」 ボタンを押して OK です※5。

- 9 ここで、処理を実行するタイミングを指定しておきます。

タイミングは、 ◦ Run this task at - 処理を実行する時刻

• Daily ◻ Every ◯ day (s) - ◯ 日ごと

• Every weekday - 平日の間は毎日

• Weekly ◻ Every ◯ week (s), on the following days - ◯ 週ごとの、特定曜日

(曜日は複数指定可)

・ Monthly ◯ On day ○ of every ○ month (s) - ○ カ月ごとの、特定日といったオプションを元に設定できるようになっています。

10 設定が終わったら、下の「OK」ボタンを押し、あとは「Eraser」を最小化しておけばOKです。

11 作成したスケジュールを削除したい時は、ツールバー上の「Erase Schedule」をクリック → 目的のスケジュールを右クリックし、「Delete Task」を選択します。

(本当に削除しますか?という内容のダイアログが表示されるので、「はい」を選択する)

スケジュールを編集する時は、右クリック → 「Edit Task」を選択します。

そのほか、ファイルを右クリックメニューから「Eraser」で削除する機能も付いています※6。

※1 ドライブ内の未使用領域を、デタラメなデータで埋め尽くす。

これまでに削除してきたファイルを、復元ソフトで復元できないようにしたい時に。

※2 登録したスケジュールを、自動で実行させずに “ 手動 ” で実行することもできる。

(たとえば、指定したフォルダ内のファイルを、削除したい時などに)

※3 これから登録するスケジュールタスクを自動で実行させたくない場合は、「Run manually」を選択する。

※4 フォルダ内にサブフォルダしかない場合でも、フォルダの削除は行われるので注意。

(サブフォルダ内にファイルがあっても削除される)

※5 その後、登録したタスクを実行したくなったら、メイン画面左上の「Erase Schedule」をクリック → 登録タスクを右クリックし、「Run Now」を選択する。

※6 この機能を無効化したい場合は、「Settings」画面の上部にある

「Integrate Eraser into Windows Explorer」のチェックを外し、右上の「Save」ボタンを押す。